

スリニヴァサ・S・R・ヴァラドハンは1940年1月2日、インドのマドラス(チェンナイ)に生まれた。現在、彼はニューヨーク大学クーラン数学研究所の数学教授であり、フランク・J・グールド・プロフェッサー・オブ・サイエンスである。

ヴァラドハンはマドラス大学から、1959年に学士号を、翌年修士号を授与された。1963年、彼はカルカッタのインド統計学研究所から博士号を授与された。博士論文の指導者は、傑出したインド人の統計学者、C・R・ラオであった。博士論文の口頭試問の最中、ヴァラドハンは教室に彼の知らない訪問者がいることに気づいた。そしてその訪問者は多くの洞察に満ちた質問をした、ということである。口頭試問の後で、彼はその訪問者が有名なロシア人の数学者で確率論者である、A・N・コルモゴロフであることを知った。ラオ教授は、そのころにコルモゴロフがインドを訪問することを知り、彼の「スター学生」を披露するために、口頭試問の日程を合わせたようである。そして勿論コルモゴロフは失望することはなかった。

スリニヴァサ・ヴァラドハンは、モンロー・ドンスケルの強い推薦を得て、クーラン数学研究所でポスト・ドクターの研究者として(1963-1966)、学者としてのキャリアをスタートした。この研究所で彼は、親しい同僚にして共著者となるダニエル・ストルークに出会った。

『アメリカ数学会ノート』の中の記事で、ストルークは当時のことを次のように回想している。「ヴァラドハン(皆は彼のことをラグーと呼んでいるのであるが)は、1963年の秋に母国のインドからこの国へとやって来た。彼は飛行機でアイドルワイルド空港に着き、それからバスでマンハッタンへと向かった。彼の行き先は、あの慎ましい名前の有名な研究所、クーラン研究所であった。そこで彼はポスト・ドクターの研究者として研究することになっていたのである。」ヴァラドハンは、かつて帽子工場であったクーラン・ビルディングの中の、窓のない研究室のひとつを与えられた。しかし、ストルークが述べているように、この幾分質素な環境にもかかわらず、「これらの研究室から、アメリカがまさしく誇りとする、戦後の数学において際めて大きな割合を占める研究成果が流出して行ったのである。」

スリニヴァサ・ヴァラドハンは忠実にクーラン研究所で研究を続け、助教授(1966-1968)、準教授(1968-1972)を務めた後、1972年に正教授になった。1996年、ストルークとともにアメリカ数学会のスティール賞を受賞した時、ヴァラドハンは「クーラン研究所は私たちに理想的な知的環境と、先輩たち、とりわけルイス・ニレンベルグとモンロー・ドンスケルからの積極的な激励と支援を提供してくれた。」と言及することを忘れなかった。

ヴァラドハンはポスト・ドクターの研究者として、高い期待に添う仕事をしたにちがいない。1965年、ルイス・ニレンベルグはクーラン研究所の教職任命に関し、モンロー・ドンスケルへの手紙において次のようにヴァラドハン进行推薦した。「私はヴァラドハンを実に高く評価し、彼のすばらしい将来を予言する。彼は非常に若く、多くの点で確率論の助教授に最適者なのではないかと私は考える。」

15年後スリニヴァサ・ヴァラドハンは、ピーター・ラックスの後任としてクーラン研究所長に任命された(1980-1984)。ニューヨーク大学学長に宛てた推薦状の中で、ラックスは「クーラン研究所が刷新された活力に満ち、自信を持って未来へと直面して行こうとしている今こそ、新しい世

代にリーダーシップを託す時だと思われるのである。」と書いている。こうしてクーラン研究所長としてピーター・ラックスの後を継いだスリニヴァサ・S・R・ヴァラドハンは、今またピーター・ラックスに続いてアーベル賞受賞者となったのである。ヴァラドハンはその後、二期目のクーラン研究所長(1992-1994)も務めた。

ヴァラドハンはスタンフォード大学(1976-1977)、ミッターク=レフラー研究所(1972)、インスティテュート・フォア・アドヴァンスト・スタディー(1991-1992)における客員研究者であった。

またヴァラドハンはアルフレッド・P・スローン・フェロー(1970-1972)及びグッゲンハイム・フェロー(1984-1985)でもあった。

彼には、ビルクホフ賞(1994)、ニューヨーク大学、芸術科学学部のマーガレット=ヘルマン・ソコル賞(1995)、ルロイ・スティール賞(1996)など、数々の賞や栄誉が授けられてきている。また、パリのピエール=マリー・キュリー夫妻大学及びインド、カルカッタのインド統計学研究所から、それぞれ2003年と2004年に名誉学位を授けられている。

ヴァラドハンは国際数学会(ICM)において、1978年及び1994年(総会)のゲスト・スピーカーであった。

スリニヴァサ・ヴァラドハンは、米国芸術科学アカデミー会員(1988)、第三世界科学アカデミー会員(1988)、国立科学アカデミー会員(1995)に選ばれている。また、数学的統計学研究所(1991)、ロイヤル・ソサエティー(1998)、及びインド科学アカデミー(2004)のフェローにも選ばれた。

スリニヴァサ・ヴァラドハンはニューヨーク大学教授であるヴァスンドラ・ヴァラドハンと結婚しており、現在アショクという息子がひとりいる。長男のゴパルは、テロリストによる9月11日のワールド・トレードセンター襲撃の犠牲者となった。